

## 様式第1号

## 会 議 録

会議の名称		第3回第2期つくば市教育プラン懇談会		
開催日時		平成28年4月8日(金) 開会15:00 閉会16:53		
開催場所		つくば市役所 防災会議室2		
事務局(担当課)		教育局教育総務課		
出席者	委員	卯城祐司(座長) 樋口直宏 垣花京子 米徳康博 軍司絹子 島田常 岡野和夫 矢口和子 矢口和美		
	その他	柿沼教育長 塚田教育局長 矢口次長 梶山次長 瀧田学務課長 村上教育施設課長 中山健康教育課長 石黒教育指導課長 正美中山教育相談センター所長 毛利総合教育研究所長 山本文化財課長 小野村中央図書館副館長		
	事務局	大塚教育総務課長 美野本補佐, 浅野主査		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	1人
非公開の場合はその理由				
議題		(1) 計画案について (2) その他		
会議録署名人		確定年月日	平成	年 月 日
会議次第	1 開会 2 教育長あいさつ 3 座長あいさつ 4 協議事項 5 閉会			

## 1 開会

## 2 教育長あいさつ

教育長

皆さんこんにちは。委員の皆様方には公務多用の中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

第3回の第2期つくば市教育プラン懇談会ということですが、ある程度教育プランの骨子案ができました。それについて忌憚のないご意見を頂戴して、子供たちのためのよりよいプランにしていきたいと考えております。

本計画期間は5年間ということで、平成28年度を初年度として、32年度を目標年度としますので、よろしくをお願いします。

第1回、2回の会議の折にもいろいろと御指導を得たのですが、それを踏まえながらこの案を作成しておりますので、さらによりよいものとするためにも、いろいろな御意見を頂戴できればと思っております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

事務局

委員の皆様方には、委嘱期間3月31日までとしておりましたが、これからまとめの段階に入りましたので、同じメンバーの方に最後のまとめ等について御協力いただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

会議に入る前に、4月の市の人事異動で職員が変わりましたので、職員を御紹介させていただきます。

### — 職員紹介 —

議事に入りますが、進行については座長の卯城先生にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。最初に御挨拶をお願いします。

### 3 座長あいさつ

座長

こんにちは。いつもお世話になっております。

つくば市は学力が高いということをいつも聞いておりますが、個人的ですが、一番下の子供がやっと成人式が終わりまして、成人式の日、大勢の同級生がかわるがわる背中をさすってくれていて、つくば市の教育は日本一だなと（笑）……、ますます充実するように頑張っていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

事務局

では、議事進行、お願いします。

### 4 協議事項

#### (1) 計画案について

座長

それでは、議長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

協議事項（1）計画案について、事務局より説明をお願いいたします。

事務局

計画案の前に、今後のスケジュールですが、6月中に約1か月間パブリックコメントを実施したいと考えています。今回、ご意見をいただいて修正等を加えて、パブコメを6月に実施し、それを反映して修正等を加えたものを、またこの懇談会の委員の皆様に見ていただきます。それから、教育委員会で決定しまして、最終的には8月か9月頃に公表と考えております。よろしくお願いいたします。

事務局

では、続きまして、第1章から2章の部分について御説明をさせていただきます。

まず、お手元の資料のほうですが、第2期つくば市教育プラン骨子（案）と書かれ

たものと、グラフ等の書いてあるデータを示したものと、2つがお手元にあるかと思  
います。こちらをごらんください。前回、2月4日に第2回を開かせていただきまし  
て、そのときにいただいたご意見などをもとに、変更した部分などについてご説明さ  
せていただきます。

まず、第1章の、つくば市教育プランについてという内容につきましては、特に変  
更はございません。

第1章の第5節、4ページになります。こちらは、第1期の成果と展望ということ  
で表したのですが、こちらに、別冊につけました指標のほうを差し込みながら完成  
させていきたいと考えております。

例えば、一番初めの「生きる力」を育む教育の推進というところにつきましては、  
別紙の図表1から4を入れると書いてありますが、この図表というのは、例えば、図  
表1がつくば市の学力調査をすると全国の平均、県の平均よりも大分上回っているこ  
とですとか、教員や保護者の方へのアンケートで、基礎的な学力が身につけていると  
いう意見が多いというアンケート結果などを差し込みたいと考えています。

データの資料をめぐっていただきますと、図表4は教員の皆様へのアンケートで、  
施策の充実感を聞いております。AETと連携した英語教育が充実している、また、  
小中一貫教育を進める施策が充実していると感じているというようなアンケート結  
果が出ております。「生きる力」を育む教育の推進というところで、成果がこのよう  
に見える形で表れておりますので、ここに差し入れたいと考えております。

ただ、この図表につきましては、ほかにももっと適当なものがあれば、そちを入れ  
ていきたいと考えておりますので、まだ決定ということではないということをご了解  
いただければと思います。

それと、成果と展望の後に、具体的な指標の達成状況ということで、一覧の形で表  
になっているのですが、こちらについても、施策の中に入れ込むような形で作ってい  
ければと考えているところでます。

第1章のところの説明は以上です。

座長

添付の図表は、まだラフで、数字を見やすくしたりとか、それはこれからですね。

事務局

はい。

座長

はい、わかりました。

では、ただいま御説明いただきました第1章、成果と展望、あわせて、7ページの具体的な指標の達成状況について御説明いただきましたが、図や表についても、このような図を入れたほうがより説得力があるのではないかというようなことを含めて御意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

委員

細かいことですが、忘れないうちに。図表の1ページの右上の全国学力状況調査の棒グラフの基準が、6年生は算数ですが、9年生は見出しのとおり数学、数学A、Bにしないと、9年生は算数ではないので。直しをお願いいたします。

事務局

よろしいでしょうか、事務局から。

本日の資料では「成果と展望」となっていますが、第3章の「施策の展開」につなげるために、ここに「課題」をそれぞれの項目に入れたいと考えております。

例えば、「生きる力」を育む教育の推進というところには、自尊感情の育成が大切である、そして、それをさらに高めることが大事だと。また、人権教育等も含めて、不登校の子供が必ずしもゼロではないので、これを更に少なくしよう、そういう子供たちの支援体制を充実しよう。これまでもやってきたが、今後更に充実することが大切だということを課題にして、28年度以降の施策に反映できればと考えております。

それと、小中一貫教育についても、課題等を下のほうに追記し、今回、義務教育学校が1校できましたが、更にこれを拡充する。また、連携型の学校についても、更に各小中学校、学園内の交流が深まるような整備を進めていこうというようなことを入

れたいと考えております。

それと、ICT機器については、機器の整備は確かに必要であり、今後国の目標値に向けて計画的に進めていくといったことを追記できればと考えております。

6ページの学校適正配置計画についても課題として適正規模について計画的に進めていかなければならないということも入れたいと考えております。

これまでの5年計画で進めてきたこと、その成果等をまとめてありますが、それプラス28年につながるようなものを加えたいと考えております。以上でございます。

座長

ありがとうございます。

では、お気づきの点など、いかがでしょうか。

委員

ありがとうございます。表の中のアンケートの結果ですが、保護者の人数は書いてあるのでわかるのですが、いわゆる保護者でもいろいろありますよね。だから、もしかして、6年生の親だとかいうことがわかるほうが。

ただ、基礎的な学力を身につけるというのが50%以下しか満足されていないのかなとか思ってしまうのですが、多分一部の方の意見だと思いますが、アンケートの対象を書いていただけならいいかなと思います。

座長

他にいかがでしょうか。

教育長

このアンケートは教員アンケートと保護者アンケートですが、身につけていると思うか、思う能力、態度と書いてあるけれども、身につけていると思う、少しは身につけていると思う、身につけていないと思うという回答の仕方なのですか。

事務局

このアンケートの書き方ですが、20項目程度の項目がございまして、その中で身につけていると思う回答が多い5項目がこちらになっております。

教育長

その辺の説明がちょっとわからない。いろいろ項目がたくさんある中で、高いものを選んだということですか。

事務局

高いものの5つでございます。

教育長

それを書いてないと、わからない。

座長

グラフや表は見やすいのですが、そこでぱっと見てわかっても、地の文だけでさっとイメージできるように、そこら辺ちょっと、分量は難しいと思いますが、今ここから入れるともう少しなるのでしょうけれども。

事務局

その辺をわかりやすくしたいと思います。文章だけになっているので、そこに図を入れて、より課題とか成果等も見えるようにします。それを入れるに当たっても、対象が誰かということ、どういう傾向にあるとか、そういったものを加えたいと思います。

座長

実施されたようなところは、例えば、小さいポイントの、図の下に1行説明を入れるとか、そんな感じでしょうかね。わかりました。

他にいかがでしょうか。

委員

I C Tのところですが、最初に国のI C T整備指針の目標値というのがありますが、目標値というのは、達成状況の目標値53と同じということになりますか。

事務局

はい。これも先ほど言いましたとおり、国の目標値に近づけるようにということを、より具体的に課題として入れようと考えております。

表は前回の目標値であって、例えば、現在、国のほうでは、子供たちのコンピュー

夕は3.6人に1台とか、電子黒板であれば1クラス1台と、そういった目標があります。その目標に近づけたいということも、わかるように表などを入れたいと思います。

委員

指標の達成状況のところできっと表になっているところで1つだけ達成になっていないので、妙に目立っちゃって、この辺、課題感があるんだろうなというところで、その辺がわかるような文章にしたほうがいいのではないかと思います。

座長

いかがでしょうか。

文科省が毎年度出していて、数日前に新聞報道もあったような、英語の中3、高3というデータもあるんですか。

教育長

ありますね。英語にしても、理科にしても、算数、数学、国語等についても、データは非常に高い数字なものですから、茨城県でトップです。課題というのはなかなか難しい。

こういうものをあからさまにするということもできるのですが、それを極力伝えながらここに書き込んでいるので、なかなかこれといった課題が出てこない。

座長

いかがですか。

委員

別冊の資料の3ページの、小中一貫教育の推進の図表5は、何年度ですか？下は平成22年度ですが。

事務局

申し訳ございません、上が平成27年度の調査、児童生徒を対象にしたアンケートで、「学校は楽しいですか」というアンケートに対する回答をいただいたものでして、前回、第1期の計画を策定するときにも取りましたアンケートの結果と比較していま



す。

委員

平成 22 年度も項目は「学校は楽しいですか」と同じ設問なのですか。

事務局

はい。それは同じです。ただ、前回と学年が若干異なっていますので、そこら辺の表現の仕方も、工夫したいと思います。

事務局

前回の 22 年度と、今回の 27 年度の比較という意味で載せたのですが、年度の記載とか、グラフの表示とか、多少違うので、わかりやすく比較しやすいように直します。

委員

同じ学年の資料はないんですか。

事務局

この学年のデータだけです。

委員

同様のことだと思いますが、やはり、データを本文のところに入れ込むときには、しっかりと本文を裏づけるデータで、読みやすいようにというのが基本だと思うんですね。データのほうの確認はいろいろありますので、例えば図表 1 から 4 を入れるということになるのだと思いますが、少し見づらいかなと感じるところです。

ばらばらのメモだったり、ばらばらのアンケートの取り方だったりするので、工夫してそのところにうまく入れ込むということが必要になってくると感じます。

座長

文言あたりも、例えば、図表 3 あたりは、「身につける」が全部ついているのですが、こっちだと本当、何を身につけるか、メッセージとして位置づけるか。それから、横棒の大きさとか、そこはちょっと工夫することが必要ですね。

図表 5 は、今後はやはり、そろえて比較しやすいように出してください。様々なご事情があって、ここしか取れなかった。

他いかがでしょうか。

委員

同じ観点ですが、最後のほうの、8項目重点事業があつて、15項目具体的な指標があるというようになっていますよね。多分、重点事業があつて、それぞれに指標があるということですよね。指標の達成状況というものの並び方も、それに沿って変えるの見やすいのかなと思います。

事務局

この表は見づらいので、この表の成果を重点事業の8項目の中に入れたほうがいいのかと考えております。全部の指標を入れるのではなくて、説明ができるものをそれぞれの8つの重点事業の中に盛り込めれば、よりわかりやすくなるのかなと。

委員

ちょっといいですか。具体的な指標って、評価したときに、もっといっぱいあったんですよね。これだけですか。

事務局

前回の指標はこれだけです。

委員

わかりました。

委員

総合教育研究所というのは、指標はなかったんですか。これに当たるような指標がよく私にはわからなかったのですが。

教育長

総研の指標というのは、教員の研修受講率、これではないですか？

事務局

そうです。

委員

いいですか。私が解説するのも変な話ですが、7ページのこの指標は指標ではなく

て、前回の9つの方針に対応する表がそれぞれついていて、その方針を具体化するための指標がこの4ページから6ページにあっているので、必ずしもこの4から6とこの7ページの表が対応しているわけではないので。

事務局

それで、よりわかりづらくなるので、この表を入れるのはやめて、重点8事業の中に該当する、例えば、総研については教員の研修ですか、そういったものを入れたいと考えております。

座長

表を移動する、数値を移動するということも含めまして、他にももしありましたら。では、元に戻ることもあるかと思いますので、お気づきのときには元に戻りたいと思います。

次の御説明、お願いします。

事務局

次に、第2章、第2期つくば市教育プランの目指すものから説明をさせていただきたいと思います。

この中の第1節、計画の基本理念・目標。

前回、2月の懇談会で示したものは大分印象が変わっているかと思います。そのときにいただいた御意見を反映いたしまして、目指す生徒像という図ですとか、SCHOOLの言い方ですとか、というところを省きました。

また、御意見の中でありました、強調したい理念、目標を出すというところで、基本理念の「未来をひらく、やさしく、しなやかで、たくましい幼児・児童・生徒の育成」を基本理念として、「夢・感動のある楽しい学校」の創造を目指すということで、ここを特に目指していきたいということを表しました。

計画の目標ですが、基本目標3つというのはそのままなのですが、基本方針、前回は6つの基本方針でしたが、7つにしてございます。

ひとつ増やしたのは、基本目標3「つくばの特性をいかし、社会全体で子供を

育む」が、前回までは基本方針としては6の部分だけでしたが、「学校・家庭・地域が連携・協働し教育を推進する」というところに、基本方針を1つ別に設けました。つくばの特性をいかすということで、基本方針7ということで別立てにして、つくばの特性を活かした教育を推進することを強調しました。

続いて、第2節の計画の体系というところでございます。前回からの御指摘により変更になったところを説明させていただきます。

まず、基本方針1のところの施策1「確かな学力とつくば次世代型スキルを育む教育の充実」ということで、今まで「21世紀型スキル」という言い方もございましたが、「つくば次世代型スキル」という言い方に統一してございます。

また、施策1の中の主な取組、小中一貫教育については記載がありましたが、そこを幼小中高一貫教育ということを御提案いただきましたので、点の2つ目、幼保小中高の連携、幼稚園、保育所から高校まで連携していくとしております。

また、施策2のところですが、幼児教育の充実のところ、主な取組の3つ目、幼稚園・家庭・地域の連携による教育力の向上。こちらは、今まで基本方針6のところにありましたものを、こちらに移動してございます。

基本方針3のところですが、今まで、基本方針の「だれもが輝く教育を推進する」というところで、施策1のところ、「インクルーシブ教育」という言い方をしておりましたが、「特別なニーズに対応した教育」という言い方に変更しております。

また、この中で、主な取組の3番目、帰国・外国人児童生徒への支援というのは、前回お示ししましたものは施策3ということで別立てにしておりましたが、特別なニーズに対応した教育ということで、こちらに含ませていただきました。

次のページになりまして、基本目標2が「教育環境の整備を図り、質の高い教育を推進する」という言い方になっております。

ここで、基本方針4、それまで「魅力的な教職員の育成」という言葉を使っておりましたが、教育委員さんからの御指摘がありまして、「信頼される教職員」という言い方に変えております。

また、基本方針4のところ、これまで、施策3「適切な人事管理の実施・促進」を設けておりましたが、施策1の部分で「教職員評価を活用した人事管理」ということで、「教職員の資質能力の向上」に含ませました。

また、基本方針5は、前回お示ししましたものは、施策が6まで分かれておりましたが、それを整理しまして、4本立てにしております。

最後、基本目標3のところ、先ほど御説明しましたように、基本方針7として、つくばの特性をいかした教育の推進ということで、1つ方針を増やしてございます。

続いて、施策のほうも説明させていただきます。

## 事務局

基本目標1 社会を「生き抜く力」を育む

基本方針1 未来にはばたく力を育む

基本方針2 豊かな心と健やかな体を育む

基本方針3 だれもが輝く教育を推進する

を説明

## 座長

基本目標1，基本方針1から3について御説明いただきました。

細かいところですが、基本方針3，23 ページ，○印の中の2つ目は「ユニバーサルデザイン推進」となっていますが、その上は何々を「推進します。」となっているので、そろえたほうがよいかと。

## 事務局

わかりました。

## 座長

もう1つ、基本方針1の中の、先ほどの御説明の中にもありましたが、地域との連携というのは基本方針6のほうにも出ていますが、こちら辺はどうなのでしょう。同じ「地域」、「連携」とかいう言葉が重複している印象もあります。

事務局

そのような印象になってしまうかもしれませんが，ここでは科学教育や国際理解教育ということで，基本方針6とは切り口が違う形でこういった書き方をさせていただいております。

座長

何か「地域人材」とか「研究機関」とか，ちょっと言葉を補うと，重複感が薄れる感じもしますが。

では，基本目標1，基本方針1から3について，御意見，御質問等ありましたら，よろしくをお願いします。

委員

基本方針1の，「確かな学力とつくば次世代型スキルを育む教育の充実」の中に入れるのが意義があるかなと思いますが，グローバルな人材育成というのもありまして，その中には環境教育や，国際理解教育が入っているのですが，世界を見ますと，力と力がぶつかっているような争いなんかがあるのを考えると，グローバルと考えたときには，平和教育というのをどこかに盛り込んでいったほうがいいのかと思います，それは入っているのですか。後ろに入っているかどうかはまだ見ていないのですが。

事務局

平和教育は入っていません。

島田

そういう文言があったほうが，グローバルな人材育成の中の一つとしていいのではないかなと思いました。

座長

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

委員

14 ページで，「アクティブ・ラーニングで質の高い教育を追究します」とあるのですが，学習指導要領が出るたびに流行が発生して，やがてそれが消えていくと，そう

いう傾向が結構ありまして。

5年間この教育プランがその実践を兼ねて実証されるということになりますと、アクティブ・ラーニングという言葉自体も、非常にいい方向性を示す言葉であればまだいいかなと思いますが、既にアクティブ・ラーニングと違う言葉も出てきているような感じがしまして、そこら辺を補てんしたほうがいいのではないかなと思います。

大学の先生は十分御存知だと思いますが、日本語で言うと「深い学び」みたいな、そういうものもあるので、アクティブ・ラーニングだけここへ入れるのではなくて、もう一つ何かあったほうが多様性も出てくるのではないかなと思います。

座長

アクティブ・ラーニングといっても、実際、調べようとするとなんか様々ですね。全てがアクティブ・ラーニングということになる。

樋口先生いかがですか。

委員

私、専門の割には不勉強で申し訳ないですが、「深い」という言葉が出てきたのは、結局、活動しているだけが何でもアクティブ・ラーニングかという、それに対する批判というか、そこでその中身というか、学びの縦軸というか、深さをどう入れるかということで、「ディープ」なんていう言葉を入れて「ディープ・アクティブ・ラーニング」なんて言っている研究者もいるのですが、そういう関係性にあるのかなというのはわかります。

ただ、現実問題として、ここにそういう「ディープ」と入れるべきかとか、「アクティブ・ラーニング」や「深い学び」と入れれば話は解決するのかというところちょっとわからないし、非常に楽観的ですが、5年ぐらいは、持ちこたえる言葉なのかなという気持ちは、個人的にはありますね。

座長

中には、アクティブ・ラーニングの失敗例みたいなものもありますよね。主体性を重視しすぎてこうなっているという形で。

## 委員

16 ページで、「学びのイノベーション」という言葉も何回か出てきているのですが、この言葉も、文部科学省は、平成 23 年ぐらいからやってるんですよね。ICT 教育の中でやっていると言われていて。

つくば市の場合は、もう既に文部科学省の報告書以上のことをやっておられるので、今さら「学びのイノベーションを図り」じゃ、ちょっと、これから 5 年、もう少し頑張っていられちゃうのではないかなというふうに思います。

他の地域は各学校が頑張っているだけなのですが、つくばの場合は、つくば市全体の学校が ICT 教育というのを本当に先生たちみんなで頑張っておられるというのを見てきているから、学びのイノベーションの実践校の報告書を見ると、つくばではもうとっくにやっていることだよなと思っているんですね。ですので、是非これを超える何かを皆さんで考えて。何か、もっとやってるんじゃないかと思いますが、いかがでしょうか。

## 教育長

まさにそのとおりなのですが。

ただ、実践するのは教員自身なものですから、年に 5 割くらいはつくば市は先生方が入れ変わっていますよね。「学びのイノベーション」という言葉すら「何それ？」という先生方もかなりいる中で、ある時期は自らの授業の改善というようなものをしっかりやるんだよということを意識づける意味で、「学びのイノベーション」というよりも、「教師のイノベーション」と今言っているのです。

そういうことを意識した改善ですね、授業改善、これを先生方にお願いをすると。そうすることによって、子供が生き生きしたり、楽しくなったり、結果として学力が向上したり、人と人とのコミュニケーションが高まったりというようなことにつながっていくのかなというふうに思います。

## 委員

今、先生がおっしゃった、やはり「教師のイノベーション」とか、そういうほうが。



もちろん、「学びのイノベーション」というのは文部科学省が言っている名前なので皆さんそうかと思いますが、逆に言ったら具体的に何なんだろうってわからない人もいっぱいいますよね。でも、「教師のイノベーション」と言われたほうが、新しい教育を目指して頑張っていくことにつながるだろうから、そのほうがいいですよ。学びというのは、教師もあるけれども、生徒側のほうに学びというのが多くなっちゃうので、と思うんですけど。

座長

ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

委員

23 ページの基本方針3の施策1のタイトルが、「特別なニーズに対応した教育」。その方向性3つのうちの3つ目のところに、外国人うんぬんという、そういう話が入って、今回、それを合わせる形でここに入れ込んだという趣旨はわかったのですが。

ただ、その経緯を知らないと、特別なニーズという言葉は、やはり特別支援を直接に意味するので、外国人の教育というのを特別なニーズ範疇の中に入れるということは、ちょっとこういう基本方針としては難しいのではないかな。

だから、これをどのような形で、帰国、外国人の別なところに置くか、特別なニーズの施策1の言葉を特別支援以外にも使える言葉にちょっと変えるかしたほうがいいのかなと思います。外国人を特別扱いするような形になってしまいます。

事務局

そうすると、前は施策のところに「インクルーシブ」という言葉を使っていたのですが。

委員

それをだから、前はどうでしたか、施策のところが、前回は、インクルーシブ教育で、その中に、外国人というのはどういう入れ方をしていたのですか。そもそも、インクルーシブじゃないところに入っているわけですよ、施策の。

それが、前は施策で、そもそも帰国・外国人指導というふうに別立てでいたから、それをこの中に入れることによってちょっと無理が出てきたという、そういう理解ですね。

教育長

今までは確かに、帰国・外国は国際理解教育あたりに入れていたのではないですか。あるいは、個に応じた指導あたり。ここは検討しなくてはだめですね。

委員

もう1つ、18ページの幼児教育のところですが、主な取組の内容の2つ目、幼児教育から小学校教育へのスムーズな移行。アプローチカリキュラムというのは、幼稚園と小学校で協働して作成していくわけですが、小学校はそれを受けて、スタートカリキュラムというのを設定しているわけです。

幼稚園側のアプローチカリキュラムと、小学校側のスタートカリキュラムがうまく接続しないと、このスムーズな移行が推進できませんので、ここには「スタートカリキュラムとの接続性を高め」という文言を入れていただいたほうがいいと思います。

「アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの接続性を高めながら」とかのほうが、よりスムーズな移行、滑らかな接続という意図が波及するかと思います。

座長

ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

委員

22ページですが、健やかな体の育成というところに「災害時に安全を確保する」というものが入っているのが、個人的にはちょっと違和感があるような気がするのですが。

いろんなところで防災とかそういったところは後で出てくるところですが、この章というのは基本的に子供たちのスキルを高めるという意味ですよ。他では入れようもないので、しようがないといえばしようがないのですが。

何か、自分もちょっといい案がないまま、疑問に思ったことをただ提示しているだけで申し訳ないです。

座長

他に入れる場所がないのかもしれないですが、一応検討していただいて。

委員

大項目からすると、健やかな体というと、体を鍛えるとか、そういったところをイメージしやすいので、これは危機管理能力ということだと思うので、ここがいいかどうかというのは、ちょっと検討だけいただければと思います。

座長

場所、あるいは、タイトルを少し変更することで広がるか、そのあたりちょっと御検討いただければと思います。

他いかがでしょうか。

委員

施策指標というのが入っている項目と、入っていない項目がありますが。17ページのところに施策指標があって、現状値と目標値が入っていますよね。これは施策1に対しての指標ですよね。ほかの施策には全然入ってないですよね。これは一つ一つに入らないんですか。

事務局

指標を設定するのが難しいところについては入っていないところがあります。

教育長

何も1つじゃなくても構わないんでしょう。

事務局

はい。

教育長

だから、これはまだ全然、未完成ですよね。ですから、そこまで間に合っていないと

思います。

委員

わかりました。

教育長

もう少しここは検討した上で、次につなげたいということです。

座長

また戻ることがあるということを前提に、次に進めさせていただきます。基本目標 2 と 3，お願いいたします。

事務局

基本目標 2 教育環境の整備を図り，質の高い教育を推進する

基本方針 4 信頼される教職員を育成する

基本方針 5 教育環境を整備する

基本目標 3 つくばの特性をいかし，社会全体で子供を育む

基本方針 6 学校・家庭・地域の連携・共同による教育を推進する

基本方針 7 つくばの特性をいかした教育の推進

を説明

座長

ここは基本方針 4 から 7 についてご説明いただきました。ありがとうございます。

まさに細かいところで申しわけないですが，32 ページ，インターナショナルセーフ スクール認証の最後，「機能していることに関する認証」ですね。「を」でなくて。

それから，内容が気になってしまって，同じところで申しわけないですが，26 ページの「教職員評価を活用した人事管理」ですが，何となく，この言葉があって下のメンタルヘルスにつながっちゃうような気がして気になるのですが。

何かこれ，もう行っている言葉なのではないでしょうかけれども，例えば，「指導・改善・向上を目指す教職員の自己点検」とか，やわらかくいかないのでしょうか。

資質能力の向上の中で、これが外に出ちゃうと、ちょっと、何となく強い。ちょっと御検討いただいて。

他にいかがでしょうか。

委員

29 ページの施設の充実のところですが、いろいろトイレとか外壁とか割と細かいところを書いていただいているので、今、エアコンの設置なんかも多分、計画に入っていると思うんですね。実際そういう答えをいただいたので。結構PTAのほうからは、毎回「エアコン、うちはいつ入るんだ」ということを言われるので、可能であればこの辺を盛り込んでいくと、安心していただけるのかなと思います。ちゃんと計画に入っていますよということさえあれば、あとは順番ですよというところ。

教育施設課長

小学校については、27年度から3年計画で整備しています。中学校については、小学校の整備が終わってからまた検討していきます。

委員

ありがとうございます。

事務局

計画の中に入れていきたいと思います。

座長

ありがとうございます。

委員

1つ教えてください。31 ページに、J A E Tから認定を受けるというところで、学校情報化先進校というのと学校情報化優良校という認定って2つの言葉があるのですが、違うんですか。

教育長

優良校は前年度に取れました。

委員

取れてるんですよ。で、先進校というのはまた違うんですか。

総合教育研究所長

チェックシートがありまして、レベル0からレベル3まであります。優良校というのはレベル2までになります。0というのは悪いほうで、例えば、電子黒板が入っていないとか、そういうのは0で、2になると、ほぼ入っている。レベル3になると、教育演習とか、整理とか、情報とか項目があるのですが、レベル3というのは全て整備させているということになっています。

教育長

学校情報化先進校は学校情報化優良校よりも上ということです。

委員

でも、つくば市は学校情報化先進地域として、言われてるんですよ。

総合教育研究所長

優良校が80%あれば、先進地域と認定されます。

委員

この地域は、それではあるんですよ。

教育長

そうです。

委員

そうですよね。

教育長

ですから、この指標は適当ではないですね。

委員

そうですよね。何か、ちょっと変かなと思ったんです。

教育長

これは直すようにしておきます。

委員

お願いします。

座長

ありがとうございます。

他にありますか

委員

35 ページの、学校給食の充実のところですか。安全・安心な学校給食の提供というところで、学校側として自分が一番すごくありがたいなと思っているのが、アレルギーの対応とか、非常にきめ細やかに連絡表をつくっていただいたり、健康教育課と連携して保護者に面談をしたりということで、これは非常に学校としてはありがたいなと思っているので、こういうのって入れたらおかしいでしょうか。

教育長

おかしくない。具体的に入れるべきだと思います。

座長

ありがとうございます。

他にいかがですか。

委員

あと、ところどころに出てくる施策の指標のところ、現状値と目標値が並んでいる場合、目標値の設定というのはどのように決まっていたのですか。例えば、気になったのが 37 ページのところ、現状が 2 万 300 人で、目標が 2 万 500 人というのは、もうちょっと頑張ればいい。

委員

もう 1 つ、給食センターのことなのですが、35 ページ、予算のことがあってなかなか工事が進まないんでしょうけれども、何かこの整備に関してはずっと随分前からいろいろなところで話が出てきている割に、進んでないですね。もう少し強く、いつ頃までにとか、いくつぐらいはという方針を出せないのでしょうか。

いくつかは決まっているんですね、もう。給食センターをいくつにするとか、そ

ういう話を確か聞いたことがあるのですが、それをもうちょっと早く、進まなくても大丈夫なのか。現状ね。わからないのですが。いつもこの話が出てくるのですが、現実的には何か全然進んでないような気がするのですが。

その辺は、もうちょっと何か形として、せっかく造るんだったらもうちょっと、給食センターってすごい子供たちにとって大事だと思うんですね、食べる教育というのは。だから、ぜひきちんと進めてほしいなと思っているのですが。

いつもなかなか、今年1個できた、3年に1個ぐらいしかできないですよ。だから、そういうのはもうちょっと市とかに言ってやってもらうぐらい強く出られるような方針をここに書かれてもいいのではないのでしょうか。

健康教育課長

今の計画としまして、今年度と来年度の2か年事業で、28年度の予算で継続ということで、仮称ですが、新谷田部学校給食センター整備の設計業務を委託しております。2か年で設計業務を行い、その後建設する計画でおりますので、具体化しております。

委員

設計に2年もかかるんですか。いつも何か聞くと、すごい長いですよ。

健康教育課長

実際に、2年間といっても、まるまる2年ではないのですが、年度は当然またがってしまいます。内容は基本設計と実施設計を予定しており、2か年ということで計画しています。

委員

それをつくるのにまた何年かかかる。

教育長

1年です。

委員

1年かかりますよね。ということは、3年ぐらいはでき上がるまでにかかる。

健康教育課長



建設のほうも、年度的には2か年にまたがる予定です。

委員

わかりました。そうやって具体的に少しずつ進んでいくことが見えてきたほうがいいんじゃないでしょうか。

健康教育課長

わかりました。

教育長

見えてないからね。

委員

見えてないですよ。いつも「進めます」と書いてあるだけで。

教育長

進捗していただかないと、また来年。

委員

子供も卒業しちゃいますよね。すごい気になってるので、ずっと。

座長

では、文言を少し入れていただいて。

他にいかがでしょうか。

委員

32 ページですが、学校防災体制のところ、私、ちょっと別のところで同じことを言ったかもしれないですが、防災力を強化推進ということは、連携強化とか、実際にいろんなことをやるということも大事なのですが、多分、防災品の確保とか、そういったことも大事ではないかなと思うので、その辺のことが盛り込めるようであれば、このプランのほうに盛り込むのがいいのかわからないのですが、検討いただければなと思っています。

座長

ありがとうございます。

事務局

先ほどの御意見，防災教育のところでございますが，実際，文部科学省でも「健やかな体の育成」という分類になっております。

自分の体を守るとか，そのために，安全，危険があったときに自分の体を守る能力を身につけるということで「健やかな体の育成」に防災教育に入れてあります。

ですので，「そういう体制を整える」との表現はわかりづらいので，「自分でそういう能力を身につける」というような表現にしたいと考えております。

座長

よろしく申し上げます。

教育長

よろしいですか。備品関係は，教育委員会ではなくて，市長部局の環境生活部のほうですから，それも一緒にやっけては行くのですが，ここでは我々予算は取れませんので，体制とか，教育のほうに力を入れるということになってしまうのです。

座長

38 ページの伝統・文化等に触れる教育の推進，「体験的活動の充実を図ります」というところですが，もうちょっとないんでしょうか。

何となく，いつもこのページを見ていると，例えば，写真もロケットと科学的なところを載せていますが，もっといろんなところがあると思いますが。

言葉では「つくばスタイル科」とか，「まつりつくば」はありますが，祭りはどこでもあるでしょうし，連携はどこでもしているでしょうから，何かこう，あっ，郷土色豊かだなとか，そんなところがあると。何かこう，ロケットだけじゃないということも……。

文化財課長

写真については，小田城跡広場が新しくできたので，それを載せることはできると思います。

教育長

38 ページのこの写真は何ですか。これは学園都市の駅前の写真ですか。

事務局

これは、ロケットと筑波山が入っているので、つくばの豊かな自然と科学が融合していることを表せるかなと思って載せていますが、もっといい写真を検討します。

座長

いかがでしょうか。

委員

今から言うことが今回のプログラムに入るのかどうかわかりませんが、つくば市は土曜日授業をしているじゃないですか。そういうことに絡めて、学校・家庭・地域社会との交流とか、そういうところで述べていくのもいいのかなと思うので、提案してみました。

座長

そうですね。ありがとうございます。

他いかがでしょうか。

委員

伝統・文化に触れる教育、というのが教育の仕事ですが、博物館とかそういうのは教育ではないですかね。つくば市って意外と美術館、そこにあるだけだったりして、充実してないと思うんです。

教育長

欲しいですね。

委員

それはどこがやるんですかね。美術館とか、博物館でもいいですが。

教育長

文化振興課。

委員

何か今、それがちょっと不足しているなというのはすごく感じるんですね。どこで

主張するのかわからないですが。

教育長

分散していますしね。

委員

そうですね。どこかに1つあると。そういうことは希望しているので。

座長

ありがとうございます。

他にお気づきになったところがありましたら。

また、会議後も御意見いただきますが、この場で、もしいただければ。

委員

これは第2期のつくば市教育プランという、非常に、つくば市の教育をきちんと統合する、説明する、また、PRする資料だと思いますが、つくば市の教育は非常にいろんな面で特色あることが実践されていますので、それを全体的にいろいろPRできるような形でやる方がいいと思います。

小中一貫教育は全国でも特色ある実例をやっていますし、特別支援教育についてもやはり内容的にはすばらしいものがあるし、その意味で、ICT教育も含めてそうなのですが、つくば市の教育プランなるほどなという感じに持っていきたいですね。

今、茨城県内で総合教育研究所があるのは、水戸市とつくば市だけですね。それぐらいに総研の存在もやはり大きな位置づけになると思いますね。

第1期目のときに総研の内容は余録的に総研の充実とありましたが、総研が更に充実するというのは、第2期も同じだと思いますので、どこに入れてもらうかというのは、いろいろ関連しているので、研修のほうでもいいですし、総研が設立されてから充実しているという状況は、本当に、つくばはゼロからスタートしてそれができて今充実していますので、そういったことも是非つくば市教育プランの中に位置づけてもらいたいなと思っています。

座長

ありがとうございます。

委員

私、今悩んでいたのは、何か頭の中で整理できないのはどうしてなのかなと考えたのですが、1期のプランで基本方針1から9まであったのを7つに変えたわけですよ。そのときに、1から9というのは内容によって1から9に分かれていたのですが、今度1から7にしたときに、「つくばの特色をいかす」とか、「だれもが輝く」という、異論のないものではなくて、魅力的な感じの言葉が入ってきました。

ただ、これ、縦軸で、つくばの特色をいかしながら、学力も、豊かな心もやっけていくわけですよ、健やかな体。それから、「だれもが輝く」というのもそうですね。だから、横軸と縦軸が格子の中に入っているんで、頭の中で整理がつかないでいたのですが、そうですね。

ただ、こういう方針にしたほうが非常に色は出るし、ただ内容で分けたらどこの市でも一緒なので、これでいいと思いますが、縦軸と横軸が混じっているんだという認識を持つと、少し今、頭の中が落ち着いてきたのですが。

それで、例えば、17ページでいうと、ここは結局、未来へ羽ばたく力なので、ここに昔でいうと、新しい時代に対応した教育の推進が入ってきて、環境とか、国際理解。先ほど教育長が、外国人のお子さんのところ、前は国際理解に入っていたよねというのがあったわけです。

なので、こういうところで、先ほど、外国人の子供がいることを、全体的なものとしてプラスの面にとらえると国際理解、協力になるんだけど、その子のニーズということである日本語指導になってくるわけですよ。だから、両方に入ってきていいんだろうと思いますが。

17ページで地域との連携という言葉も上に入っているのですが、何でここに地域との連携が入ってくるのかな。地域との連携はこの後、基本方針6に柱でも出ていますからね。むしろこの17ページの国際理解とか環境教育のところをもっとここで、つくばスタイル科などと引っかけながら、もっとアピールしたり、膨らませたりすると

いいのではないかということを考えました。

先ほどの特別なニーズのところですが、結局、特別なニーズを持っている子というのは、1つが、この隣でいうと、特別支援、いわゆる障害を持っていたり、発達障害であったりする子供と、それから、不登校だったり、それから、集団不適應だったりする子、それで、もう1つとして、日本語指導の必要な子という3つを、特別なニーズを持つ子というとらえ方をしたのだと思うんですね。

なので、ここに、そういう意味で、一人一人を見つめるとなるとここに入ってきておかしくないと思いますが、ただ、特別なニーズのところに入ると何か、特別なニーズはあるのですが、特別なニーズというのは特別支援だけにとらえられちゃうので。

前は「一人一人のニーズ」という言葉であったと思うので、「だれもが輝く」というのはきっと一人一人のニーズだと思うので、施策1で特別なニーズ、特別支援をやって、施策2で教育相談、つまり、集団不適應の子をやったら、施策3として取り立ててあげて、ここに日本語指導的なもの。日本語指導だけでも薄いというか、厚みがないとなれば、似たような、さらに個別で支援の必要な何かを組み合わせれば。

ここ、基本方針3を、繰り返しになります。施策1が障害的なもの、施策2が不登校的なもの、施策3が日本語指導というようなものというふうに立てればいいのかというふうに考えました。以上です。

座長

案の一つとして、こちらのほうも検討いただいて、よりわかりやすいように。

他にいかがでしょうか。

(2) その他

座長

では、協議事項の(2)その他について、事務局のほうから説明をお願いします。

事務局

今後のスケジュールについてです。先ほども説明しましたが、計画案をパブリック

コメントにかけまして、その後にパブコメで出た御意見等、またこの懇談会で御意見をいただいて最終的な形にしたいと思います。よろしく申し上げます。

座長

これで本日の案件が全て終了いたしました。これをもちまして座長の任を解かせていただきます。御協力ありがとうございました。

事務局

本日も検討いただきましたことをきちんと整理して、より良いものにしたいと思います。本日は長時間にわたりありがとうございました。